

ワールド ウッド トренд

No. 1, 13 APRIL 2017

ベトナムの原木、製材品の輸入現状

1. 原木、製材品の輸入概要

2015 年におけるベトナムの原木、製材品の輸入量、輸入額は、それぞれ 480 万 m³ (原木ベース)、17 億 2,000 万 USD となっている。また、原木、製材品の 2016 年 1-10 月輸入量、輸入額は 350 万 m³ (原木ベース)、約 10 億 USD に達している。



図1 原木、製材品の輸入量 (百万 m³) 図2 原木、製材品の輸入額 (百万 USD)

注：図中の青、赤はそれぞれ原木、製材品を示す。

2013 年～2016 年におけるベトナムの輸入実績から、同国の原木、製材品の輸入には以下の特徴があるとみられる。

- 原木、製材品の年間輸入が、数量、金額とも大きい。
- 多くの国々から多様な樹種の木材を輸入している。

- ベトナムは主要な家具輸出国であり、輸入先の多様な品質・ニーズ・基準に満たすための原木、製材品を輸入している。
- 原木、製材品の輸入は、海外輸出向けの加工産業からの木材需要に加え、急増している国内需要を満たす必要がある。

2. 原木輸入

2013年から2016年10月までの原木輸入実績をみると、月平均の原木輸入量、輸入額は、それぞれ122,400m³、4,020万USDであった。原木の月間最大輸入は、2014年5月の189,000m³、7,470万USDであった。しかし、2016年1-10月の原木輸入は、2014年と2015年に比べて量・金額とも大幅に減少した。

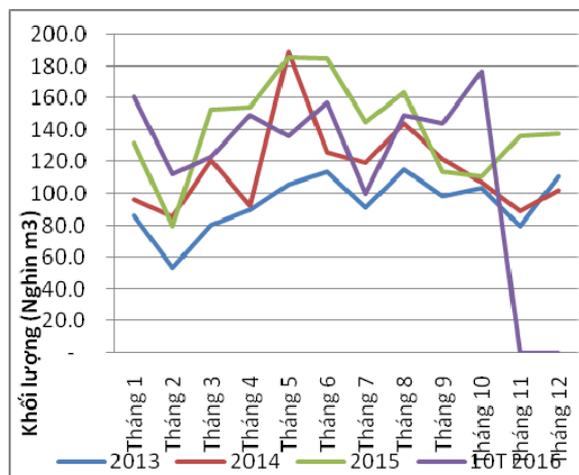


図3 ベトナムの月別原木輸入量の推移

注：縦軸：輸入量（1,000m³）、横軸：月

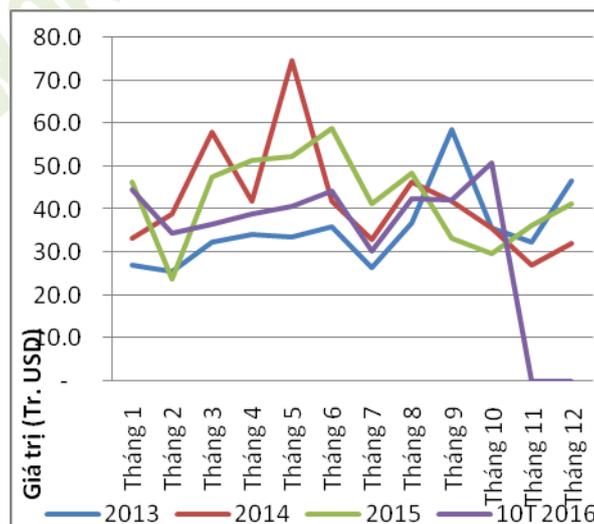


図4 ベトナムの月別原木輸入額の推移

注：縦軸：輸入額量（100万USD）、横軸：月

仕入先別に原木輸入をみると、上位 11 か国からの輸入が数量、金額とも原木輸入の 81%を占めており、以下の主な傾向が取り上げられる。

- アフリカのカメルーン・ナイジェリア、欧州のドイツ・ベルギー、そしてパプアニューギニア、ウルグアイ、カンボジアなどからの原木輸入が増加。
- ベトナムへの原木輸出は、ラオスは 2015 年第 1 位であったが 2016 年初めから急減している。ミャンマーは 2015 年以降ベトナムへの原木輸出を完全に停止した。
- 米国及びマレーシアからベトナムへの原木輸入量と輸入額は安定に推移している。

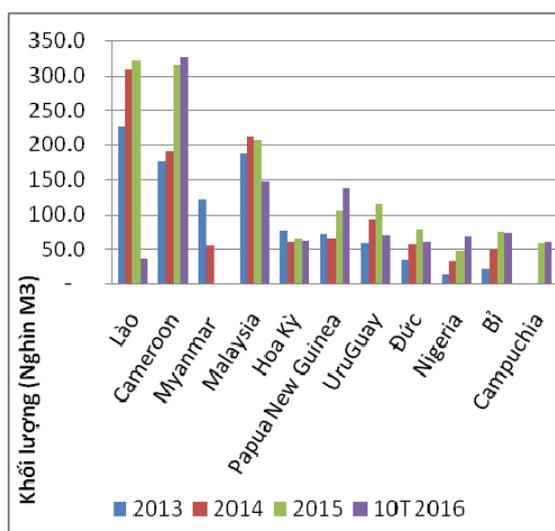


図 5 ベトナムの仕入先別原木輸入量

注：縦軸：輸入量 (1,000m³)、横軸：仕入国 (ラオス、カメルーン、ミャンマー、マレーシア、PNG、ウルグアイ、ドイツ、ナイジェリア、ベルギー、カンボジアの順)

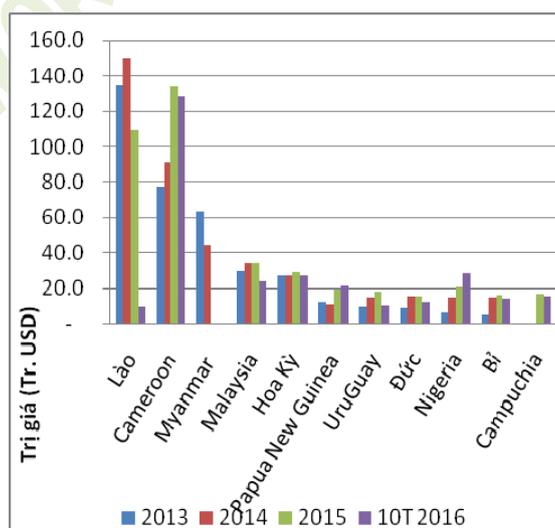


図 6 ベトナムの仕入先別原木輸入額

注：縦軸：輸入額 (100 万 USD)、横軸：図 5 と同様

3. 製材品輸入

2013年から2016年10月までの製材品輸入をみると、月平均の製材品輸入量、輸入額は、それぞれ159,000m³、8,200万USDであった。製材品の月間最大輸入は、数量ベースで2015年12月の232,300m³、金額ベースで2014年6月の1億7,200万USDであった。2016年1-10月の製材品輸入は、量・金額ともに減少した。

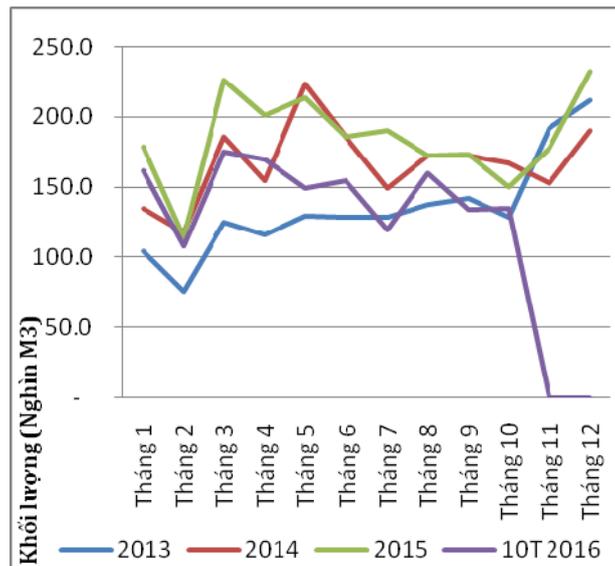


図7 ベトナムの月別製材品輸入量の推移
注：図3と同様

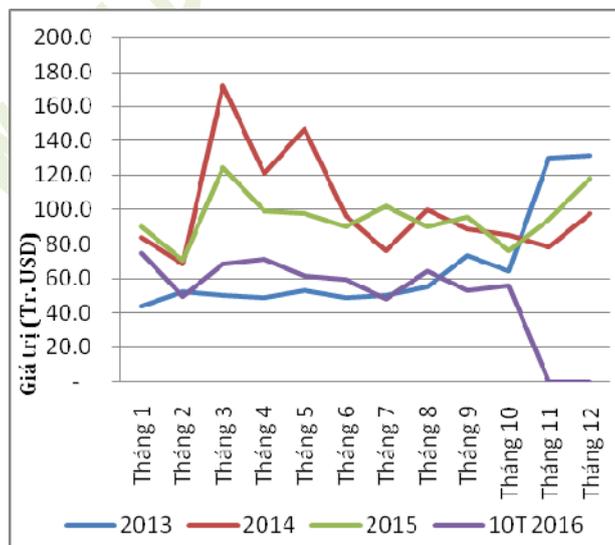


図8 ベトナムの月別製材品輸入額の推移
注：図4と同様

仕入先別に製材品輸入をみると、上位 11 개국からの輸入が製材品輸入量の約 81%、輸入額の約 86%を占めている。しかし、これらの供給国からの製材品輸入は全般的に減少傾向にあり、以下のような傾向がみられる。

- ラオスからの製材品輸入は 2014 年頂点に達した後、大幅な減少。ニュージーランド、フィンランド、中国からの製材品輸入も減少しつつある。米国、ドイツからの製材品輸入は減少し始めている。
- 一方、カンボジア、チリ、ブラジル、カメルーン、ガボンからの製材品輸入は、増加傾向をたどっている。

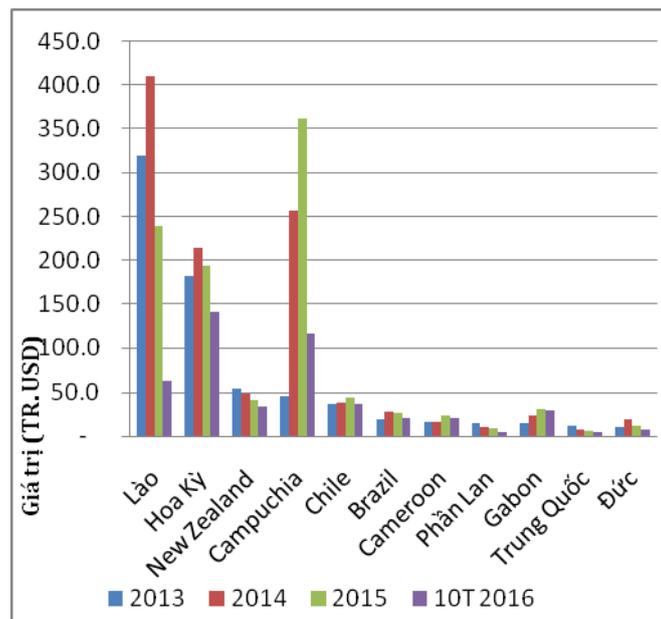


図9 ベトナムの仕入先別製材品輸入額

注：縦軸：輸入量（100万USD）、横軸：仕入国（ラオス、米国、NZ、カンボジア、チリ、ブラジル、カメルーン、フィンランド、ガボン、中国、ドイツの順）

4. 原木、製材品の主要仕入先

(1) ラオス

ベトナムと長い国境線で接し緊密な貿易関係を持つラオスは、近年ベトナムの最大の木材供給国となっている。ラオスでは、木材製品が GDP の成長に大きく貢献する重要な輸出商品とみなされている。ラオスからベトナムに輸出される木材の樹種は主に、パドック (*Pterocarpus macrocarpus*)、サザンアメリカンローズウッド (*Dalbergia sp.*)、メラワン (*Hopea spp.*)、タラウマ・ジオイ (*Talaumagioi*) などの熱帯広葉樹である。

ラオスからベトナムに輸入された原木の多くは、他のアジア諸国（中国、インド、香港、台湾）に再輸出される。残りは木工産業の盛んな様々な地域（村）で加工され、住宅建築用となる。ラオス材を使用した木材製品の多くは、地元

の市場で販売され、また伝統的な東洋文化圏の国々に輸出されている。

ラオスからベトナムへの原木輸入は、2014年に308,600m³（1億4,950万USDに相当）を記録した後、2016年に急減し始め、同年1-10月は36,000m³（前年同期の原木輸入量のわずか11%）の輸入にとどまった。同期の原木輸入額は960万USD（2015年原木輸入額の8%）であった。同様に、ベトナムのラオス製材品輸入量及び輸入額は、2014年にそれぞれ495,000m³、4億1,000万ドルとピークに達した。2015年初頭からラオスは対ベトナム原木輸出を削減し、95,600m³（6,250万USD）となっている。この後退の背景にある主な理由は以下のとおりである。

- ラオス政府は天然林からの木材の管理を強化、原木と粗板の輸出を禁止し、自国における川下の木材産業の発展を優先させた。2016年5月13日付政令No. 15/PMにおいて、当政策が詳述されている。
- ベトナム政府はラオスとカンボジアからの原木、製材品輸入及び再輸出に関する制限を強化した。農業農村開発省発行の2013年5月9日付Circular40及び商工省発行の2014年10月24日付Circular37において、ラオス及びカンボジア天然林からの原木、製材品の一時的輸入及び再輸出を規制している。加えてワシントン条約(CITES)ベトナムの新規制により、対象樹種の輸入及び再輸出の管理が強化されている。
- 近年ラオスは植林事業と持続可能な植林地の運営に力を入れている。その結果、相当量の植林木（アカシアとユーカリ）を伐採しベトナムに輸出している。

（2）米国

ベトナムの米国原木、製材品輸入は、2013年から2016年にかけて増加している。米国からの輸入原木、製材品は、主に米国やEU及びベトナム国内市場向け家具の原材料となっている。

ベトナム向けに輸出される米国原木、製材品は、人気のオーク、ポプラ、タモ、チェリー、ウォールナット、パイン等の樹種である。木材の合法性に関しては、米材は、家具やその他の最終加工製品として米国に再輸出されており、デューデリジェンスが公開されていることから信用性が高くリスクが低い。

米国からの原木、製材品の輸入はかなり安定している。米国からの最多輸入量は、原木が2013年に76,000m³、製材品が2014年に485,000m³を記録した。2016年には原木輸入額が2,970万USD、製材品輸入額が2億1,400万USDを記録した。

（3）カンボジア

ベトナムとカンボジアは長い国境線を共有し貿易関係が強まっているため、近

年カンボジアからベトナムへの原木、製材品輸入は増加している。

同国からの2013年から2016年1-10月までの輸入実績をみると、原木は405m³から61,500m³に、製材品は51,000m³から375,000m³に増加した。しかし2016年初頭から製材品のベトナムへの輸入は減少傾向に転じた。

カンボジアは主に製材品をベトナム市場に向けて輸出しており、主な樹種は、60%-70%を占めるパドック、15%-30%を占めるバタール-ピンカド (*Xyliaxylocarpa*)、その他非常に高価な樹種であるベトナム・ローズウッド (*Dalbergiacochinchinensis*)、ビルマ・ローズウッド (*Dalbergiaoliveri*)、イピール (*Afzeliaxylocarpa*)、インドシナ・アイアンウッド (*Erythrophloeumfordii*)、チェンガン・バツ (*Shoreaoxburghii*) である。これら高級樹種の製材品は中国に輸出されるか、ベトナム国内消費向け手工芸品及び高級家具に使用されているとみられる。さらに、ゴムやカシューナッツなどの植林木もベトナムに輸出され、日本、韓国、米国向け家具に使われる。

(4) カメルーン

EUとの木材合法性証明システム (FLEGT VPA) を締結したカメルーンは、ベトナム向け木材の主要輸出国11か国のひとつである。近年ベトナムは、メコン地域数か国の木材輸出禁止政策による不足を補うため、カメルーンからの原木、製材品輸入を強化している。

ベトナムのカメルーン材輸入は原木が主体であり、製材品は少量にとどまる。輸入樹種は、タリ (Tali wood) が90%の圧倒的シェアを占め、残りはローズウッド、イピール (レッドウッド)、メリア (Melia)、ホワイトメランティなど数樹種である。

ベトナム向けの原木輸出量は、2013年の177,000m³ (7,750万USD) から2016年1-10月に327,000m³超 (1億2,900万USD) と増加した。また製材品は2013年の22,800m³ (1,620万USD) から2015年は36,200m³ (2,070万USD) に拡大した。今後、カメルーンからのベトナム向け原木、製材品輸出が増加するだろうとみられる。

(5) チリ、ウルグアイ、ブラジル

チリ、ウルグアイ、ブラジル国は、主要樹種としてパイン、ユーカリ、チークの原木、製材品をベトナムに輸出している。

ウルグアイからの木材輸入量及び金額は、2013年の59,600m³、960万ドルから2015年の114,200m³、1,840万ドルと増加傾向をたどっている。しかし、2016年1-10月の輸入は、わずか69,000m³、1,030万ドルで減少傾向となっている。

チリからのパイン製材品の輸入は、2013年-2016年に増加傾向を維持している。

なお、チリ材の輸入は2015年が最も多く、約163,500m³、4,450万ドルであった。

ブラジルからは主にユーカリとパインの2樹種の製材品を輸入している。その他にチークもあるが少量にとどまる。ブラジル製材品の輸入量及び金額は堅調に伸びて比較的安定しており、2015年は92,000m³、2,700万ドルであった。

(6) パプアニューギニア、ニュージーランド

2013年-2014年におけるパプアニューギニア原木の輸入は、ユーカリが主体であった。2016年には、ベトナム向けに知名度の低い樹種の輸出を増大させた。2014年の輸入量はわずか66,000m³、1,090万USDと減少したが、2016年1-10月は急増し137,600m³、2,160万USDとなった。

一方、ニュージーランドからの木材輸入は、ほとんどがラジアータパイン製材品であり、2013年の185,700m³ (5,380万USD)から2016年1-10月の132,200m³ (3,400万USD)へと徐々に減少している。

(7) ドイツ、ベルギー、フィンランド

ドイツ、ベルギー、フィンランドから輸入している木材の主な樹種は、オーク、タモ(ドイツ)、パイン、マツ、スプルース(ベルギーとフィンランド)である。

ベトナムのドイツ原木輸入は、2013年の33,800m³ (890万USD)から2015年は77,200m³ (1,590万USD)に増加している。ベトナム向け製材品輸出量及び金額は2014年に43,800m³ (1,850万USD)と最高水準に達したものの、2015年からは減少に転じた。

ベルギーからの原木輸入は、2013年から2016年にかけて増加傾向をたどっており、2013年の22,000m³弱(560万USD)から2016年1-10月の72,600m³ (1,470万USD)となった。

フィンランドからの木材輸入は、2013年の50,600m³ (1,440万USD)から2016年1-10月は17,100m³ (400万USD)と減少している。

(8) マレーシア、ミャンマー

マレーシアはベトナムに主に広葉樹の雑木、アカシア、カランジ、及びセルンサー(Selunsur)の原木を輸出しており、2013年の187,400m³ (3,020万USD)から、2015年には206,500m³ (3,490万USD)に増加している。しかし、2016年1-10月は145,700m³ (2,423万USD)に減少した。

2013年-2014年にトップサプライヤーの1つであったミャンマーは、自国の原木輸出禁止政策により、2015年からベトナムの原木供給国リストから姿を消した。

(本文は現地レポートを基に編集したもの)